

ねいの里 ホオホオニュース



樹液のレストラン

クヌギやコナラの多い明るい雑木林では、樹液の出る木がよく見つかります。この樹液は、木の中をカミキリムシの幼虫などが掘り進んでできた傷からしみ出てくるようです。植物は、光合成によって糖を作ります。この糖が傷ついた木の幹からしみ出し、微生物の働きで発酵したものが樹液です。樹液にはたくさんの昆虫が集まります。地方や標高、季節や時間によってやってくる昆虫の種類はずいぶん違います。例えば、昼間には、チョウやカナブン、カミキリムシがよく来ますし、夜はカブトムシやクワガタムシ、ガやゴキブリが来ます。樹液の香りのただよう雑木林に出かけてみませんか。

(白枝 直子氏)

ねいの里のバードマンション

ねいの里のバードマンションでは子育てや巣立ちの時期となっていてヒナの成長にあわせ色々な大きさの虫を運ぶ親鳥が見られます。しかし、毎年この頃になると巣箱を利用する野鳥や水辺の樹木に産卵に集まるモリアオガエルを狙って天敵のアオダイショウやシマヘビが出没してきます。以前はいくつかの巣箱が被害にあいましたが今ではヘビ返しのおかげでヘビによる被害は無くなりましたが、同じ野鳥のカラスとスズメに困っています。カラスはどうして巣立ちを知るのかヒナが巣からでるのを待ち構え、飛び出したところをさらっていくし、スズメは住宅難（他に空室がある）か、いじめか、今年はシジュウカラが子育てしている8号室を占領しようとしてか、執ように争い4羽の犠牲が出て1羽は雄親でした。いまは雌親が餌運びをしていますが無事巣立つか気になります。一日中見張っておれるわけでもなく、食物連鎖や自然の営みと理解しつつも何か名案があればと思っています。

(山田 一昭氏)



吉住窯のひとり言 僕、吉住窯がお伝えします! 連載 - 4

IV. コナラ炭とアカマツ炭の違い

炭には白炭、黒炭あるいは竹炭などと焼き方や材料の違いで名前が分かれているようです。僕が焼いている炭は、ねいの里にたくさんあるコナラやアカマツを材料にして、せいぜい600℃の温度で焼く“黒炭”に当たります。以前に、炭焼きのおじさんがコナラよりアカマツの炭の方が火力は強いので、刀を作るときの熱処理に使われていると言っていました。僕はもっと詳しく知りたく炭焼きのおじさんにさらに調べてもらいました。

その結果、『炭の専門の先生が炭の断面を電子顕微鏡で調べてみたら、炭の内部の形状が、広葉樹を代表してコナラの炭と針葉樹を代表してアカマツの炭とでは、その構造が基本的に異なり、この事が炭の性質の違いの元になっている』と本に発表されていたそうです。

では構造の違いと性質の違いの関係をもう少し詳しく教えてもらったら『木は仮導管、細胞膜といった組織でできており、炭になってもこの基本骨格は残っているそうです。それで、炭になったときに仮導管の部分が孔になり、これを“マクロの孔”と言ひ、細胞膜が孔の壁になり、この壁にも細かい孔がたくさんあるそうで、これを“ミクロの孔”と言うそうです』。アカマツの炭はマクロの孔の径が大きく、また壁は薄くできているために炭は軟質で、コナラはマクロの孔は小さく、壁が厚いので炭は硬質となるそうです。

『このため、この炭を燃料として使った場合に、酸素が炭の内部に進入しやすいマクロの孔の大きいアカマツの炭の方が燃焼は早く、急激に高温が得られると言うことで刀鍛冶に適している』と教えてくれました。

活動ふりかえり

バードウォッチング【野鳥の園・古洞池】(平成19年5月13日)

参加者はおよそ40名、シジュウカラやメジロ、キビタキやイカルなど様々な野鳥に囲まれての観察会となりました。子供から大人まで、じっくりと五感を使いマイナスイオンを浴びながらの充実した活動となりました。驚きや発見がメジロ押しでした!!バードウォッチングとても楽しかったです。(佐藤)

炭焼きとヘイケボタル観察会 (平成19年6月16日)

今回の行事に参加しての感想です。人家の近辺に棲んでいるホタルは、大型で強い光を出す源氏ボタルと、淡い光を小さくみに点滅する小型の平家ボタルが良く知られている。最近のホタルブームも一因と思われるが、県内のせせらぎがある処では、至るところで養殖されて、源氏ボタルの幼虫と、その餌のカワニナが放流され、さかんにマスコミに取り上げられるようになった。

自然を愛する心の発露として、熱心に養殖に取り組んでいるのには頭が下がるが、単一種だけを増殖させる行為は、概当する地域全体を見た場合には自然のバランスを崩すことにほかならない。今後、ホタル養殖のとり組みに当っては、まず、イベント的要素を除外した上で、専門家を交えてその目的を地域の全員が十分論議の上で、詳細な調査を実施し、行動に移してゆくことが必要とされてくる。(清水)

里っこ山っこ
にっこにこ

「ねいの里とネイチャーゲーム」

ナチュラリスト 鷹休 立夫 さん

今回は、ナチュラリストであり、ネイチャーゲームの達人である鷹休立夫先生に「ねいの里とネイチャーゲーム」について教えていただきます。

ねいの里のフィールドは、四季を通じ、野鳥をはじめ貴重な野生生物や植物が観察できます。

三本柱の理念 親しもう 学ぼう 考えよう

でも、遊びがない。遊びから楽しみ・自然とのつながり・気づきがあるんじゃないだろうか?遊びを通して、自然の不思議やしくみを学び、自然と自分が一体であることに気づく事を目的にするのがネイチャーゲームです。

- ☆ いつでも…春・夏・秋・冬・朝・昼・夜
- ☆ どこでも…公園・街・森・川・海・室内
- ☆ だれでも…子供・大人・親子
- ☆ 五感を使って…見る・聴く・さわる・嗅ぐ・味わう

さあ、皆人様、遊びながら学ぼう、生きものくらし、いのちのつながり、発見の喜び、感覚を研ぎ澄まし未知の世界へ、ねいの里のフィールドへ!!より深く自然を理解できます。

自然塾の会

(ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

毎月第1土曜日が活動日です。

参加予約はいりませんが、ねいの里との共催行事には予約が必要です。

お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)

昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんで食べましょう。

8月4日(土)

9月1日(土)

○ 午前10時～12時

○ 午前10時～12時

「夏の生き物観察会」

「フィールド整備補助作業」

ねいの里のフィールドで夏に観察できる

ビオトープ作りに関する作業をお手伝いします。

生き物たちと触れ合いませんか。

いい汗を流しませんか？

参加無料/定員20名

参加無料/定員40名

■ お 願 い ■

新年度の会員継続手続きをお願いしています。

Stop! ヒナの持ちかえり

小鳥たちの子育ての季節です。

鳥獣保護センターに持ち込まれる鳥で一番多いのは

ツバメなどの小鳥のヒナです。巣から落下した場合

は巣に戻して下さい。

持参する方は事前にお電話が必要です。

ねいの里行事案内

お電話でお申込みください。

詳細はHPで紹介しています。



8月19日(日)

9:30～15:00【ねいの里】

ビオトープ作りと炭焼き体験

(ジュニアナチュラリスト養成講座)

気持ちよい夏のフィールドで、ジュニアナチュラリスト受講者と一緒にビオトープ作りや炭焼き体験を楽しみましょう!

9月29日(土)

9:30～13:00【ねいの里】

楽しいクマ学～秋編～「くまが出た」

ビオトープづくり

「クマについて」の話を聞き、自然と人との共生について考えるとともに、雑木林や水辺のビオトープづくりを体験します。

- 環境月間ポスター展 6月22日(金)～7月29日(日)
- ビオトープと生き物 写真展 7月30日(月)～8月31日(金)
- 県内のカブト・クワガタ・淡水魚展 7月20日(金)～8月31日(金)
- ねいの里キノコ写真展 9月1日(土)～10月22日(月)
- ナチュラリストの自然解説で野外観察 たのしさ倍増!

土・日・祝日(11/3まで)、10:00・13:30・15:00～ 展示館前から出発します。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内

Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp

ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第6号

2007年7月22日

生き物ふれあい自然塾



今日のふくろう先生

新庄 康平君 (ジュニアナチュラリスト)

カタツムリと私

この時期、雨が降った後に家の周りの塀などでよくカタツムリを見かけます。でも僕の住んでいる家には皆さんが今思い浮かべたようなカタツムリは残念ながらいません。

ですが、よく探してみると意外にも三種類ものカタツムリが家の庭にいたのです。カタツムリは結構種類が多いのでまだ一つしか種名が分かっていませんが、こんな庭にもいるのだなあと思いました。

今の話を知って「えっ?カタツムリってそんなに種類があるの?」と思わず言ってしましそうな人がいると思います。実は人目に触れることがあまりないだけで山に行ってみると見たこともないようなカタツムリだって見つけることができます。

僕がカタツムリに興味を持ち始めたきっかけは、ねいの里の湯浅館長と山へカタツムリを探しに行った時でした。その時見つけたカタツムリが今まで見てきたカタツムリとは違って殻の形が卵型をしていて、こんなカタツムリがいたんだなあと感動したことがきっかけになりました。

このカタツムリはヤマタカマイマイといって、富山県では希少種となっていました。ねいの里で保護増殖し保全しようということで幾つもの個体をでんでん沢に移しました。

でも移した時以来、姿を見ていません。もし機会があったら少しでもいいので注意して、でんでん沢の観察路を歩いてみて下さい。どんなカタツムリか見たい人はねいの里の展示館に写真があります。

ねいの里には他にも元々生息していたカタツムリもいます。

例えば、体が真っ黒で殻が茶色く光沢のある環境省の絶滅危惧種に指定されているココロマイマイ(写真)という珍しいカタツムリもいます。

皆さんもカタツムリに興味があれば、

自然観察がてらに身近にはどんなカタツムリがいるのか、

倒木や石の下、落ち葉の下をちょっと探してみたいかでしょうか。



自然情報

(ねいの里のみどころ8月・9月)

オオガハス	ミヤマクワガタ	ショウジョウトンボ
2000年の眠りから覚め、水生庭苑をいそいそと歩きます。	クヌギやコナラなどの樹液を求め集まります。	全身真っ赤で、水生庭苑で縄張りを守る様子が見られます。